学習者の自律的な発音学習を支援するサイト「日本語発音ラボ（JP ラボ）」の開発

Development of "Japanese Pronunciation Laboratory (JP Lab)"
A website to support learners' autonomous learning of pronunciation

柳澤絵美*　邊姫京**
Emi Yanagisawa* Hi-Gyung Byun**

*明治大学　**国際教養大学
*Meiji University　**Akita International University

＜あらまし＞　学習者の日本語発音学習へのニーズは高いものの，教育現場では時間の制約等で発音指導が積極的には行われていないという現状がある．そこで，学習者が自律的に日本語発音学習に取り組めるようにするために，インターネット上で無料で利用できる「日本語発音ラボ（JP ラボ）」を開発した．JP ラボでは，日本語音声の正確さと自然さに関わる学習項目を扱っており，各項目について，学習者自習用の「説明」と「練習」，授業との連携用の「課題」と「教師用」のセクションが設けられている．これらのコンテンツを活用することを通して，教師の負担を軽減するとともに，学習者が自律的に発音学習に取り組める環境の提供を目指す．
＜キーワード＞ 日本語発音学習，自律学習，教材開発，オンライン・ツール

1.　はじめに

自然な発音やイントネーションで話すことへの日本語学習者（以下，学習者）のニーズは高いが（日本語教育学会コース・デザイン研究委員会 1991），日本語教育の現場では，発音指導が取り上げられない傾向が強い（松崎 2016）．その理由として，「発音を指導する時間がない」，「適切な教材がない」，「指導方法がわからない」といった点が挙げられる（小河原・河野 2002，田川他 2015）．これらの発音指導を阻害する要因を解消し，教師の負担が少ない形で学習者が自律的に日本語発音学習に取り組める環境を提供するために，発音練習用オンライン・ツール「日本語発音ラボ（JP ラボ）」（www.jp-lab.com）を開発した．

2.　JP ラボの学習項目と構成

2.1.　学習項目

JP ラボで扱う学習項目は，日本語音声の正確さに関わる「特殊拍」と「清濁」，自然さに関わる「母音の無声化」，「アクセント」，「複合語アクセント」，「プロミネンス」，「への字型イントネーション」の７項目である．さらに，上記以外の項目として，特定の言語の母語話者にとって課題となる「ツの発音」，「ラ行の発音」，「拗音と直音」，「ザ行とジャ行の発音」の４項目を扱っている．サイト上では，これらの学習項目がページ上部のタブで示されており，学習したい項目を自由に選択できるようになっている．

2.2.　サイトの構成

各学習項目は，「説明」，「練習」，「課題」，「教師用」の４つのセクションで構成されている．「説明」と「練習」は学習者の自習用，「課題」と「教師用」は授業との連携用として位置付けられている．

各セクションは，学習者が自律的に発音学習を進めやすいように工夫されている．まず，「説明」ではモデル音声を聞くことで日本語音声の特徴への気づきを促している．そして，「母語話者はここを聞いている」というポイントの明示や声道断面図を用いた解説などを通して，どんな点に注意して発音すればいいかを示している．例えば，特殊拍の説明では，撥音や促音の異音による音質の違いよりも，１拍分の「長さ」が必要十分に確保されていることが重要である点を示している．

次に，「練習」では，まず，語レベルを中心とした聞き取り練習を通して学習項目の発音のポイントを聞き分ける練習を行う．練習問題の解答はサイト上に掲載されているため，学習者は正答を確認しながら練習を進めることができる．そして，発音のポイントが理解できたところで，短文と会話の練習に進み，それを真似する形で発音練習ができるように設計されている．

JPラボは,学習者が自律的に日本語の発音を学べる自習用ツールであるが，授業と連携し，教師が介入することで，さらに理解と学習を深めることができる.「課題」と「教師用」は,そのために設けられたセクションである.

「課題」で扱う内容は,「練習」で用いた語・文・会話と呼応しており,「練習」のセクションで繰り返し練習してきた語や文を課題として録音・提出し，教師からフィードバックを受けるという使い方を想定している．音声ファイルの提出方法は，スマートホンに録音して提出したり，教育機関独自のLMSを活用したりするなど，学習者の教育環境に合わせた方法を選択することができる.

「教師用」には,「５分キット」と名付けられた学習項目の要点をまとめた理論説明と聞き取り・発音練習を含むPowerPointが用意されており，自由にダウンロードして使用することができる.「５分キット」には，各学習項目の発音指導に必要な要素をコンパクトにまとめてあるため，授業の最初や最後の５分程度を使って学習項目の説明をしたり，聞き取り練習をしたりすることが可能となる.

このように，JPラボでは，日本語音声の特徴を学びながら，発音練習に取り組める自習用コンテンツと発音指導に必要な要素をコンパクトにまとめた教師用資料を提供している.

3. JPラボの特徴

JPラボでは,学習者が自律的に発音学習に取り組めるようにするために，また，教師の発音指導にかかわる負担を軽減するために，さまざまな工夫を行っている.

まず，学習者に対しては，分かりやすく，気軽に使ってもらえるサイトにするために，できるだけ専門用語は使わず，平易な日本語を用いた説明をしている．馴染みのない専門用語を多用すると，音声の学習が敬遠されたり，発音学習のモチベーションが下がったりする恐れがあるため，音声学の知識がなくても教授内容が理解できるように努めている.

次に，聞き取りを重視し，多くのモデル音声を提示している点が挙げられる．これは，音声に意識を向け，聞き取りを通して発音の違いやポイントに気付いてもらうためである.対面で発音指導を行う場合は，教師などから多くのインプットが得られるが,オンライン・ツールを用いた自律学習ではそれが難しいため，多くのモデル音声を提供し，それを聞いてもらうことで発音学習を促している.

教師に対しては，発音指導に伴う負担軽減のための工夫をしている．本稿の冒頭で日本語教育の現場で音声指導が取り上げられない理由として,「発音を指導する時間がない」,「適切な教材がない」,「指導方法がわからない」という点を挙げた．JPラボでは，これらの発音指導を阻害する要因の解消に努めている．まず，オンライン・ツールを用いて授業時間外に学習者に自律的な発音学習を促すこと，また，授業と連携する場合も各学習項目の発音指導に必要な要素をコンパクトにまとめた「５分キット」を用いることで，正規の授業時間を極力使わずに発音学習ができるようにしている.次に,「説明」,「練習」,「課題」を全てJPラボのサイト上で提供することで,「適切な教材がない」という問題を解消している．さらに,「５分キット」を活用して指導を行うことで,「指導法がわからない」という問題を解決するとともに，教師が発音指導のために教材を準備する負担も軽減している.

JPラボは,発音指導を阻害する要因をできる限り解消し，学習者にとっても教師にとっても負担なく気軽に発音学習や発音指導に取り組めるように設計されている.

4. 今後の課題

今後は,学習者の日本語レベルを問わずJPラボが利用できるようにするためのコンテンツの多言語化，および，モニター調査を通したユーザーの声の収集と，それを反映させたサイトの改良や改善を行っていく予定である.

（サイトのQRコード）

参考文献

小河原義朗・河野俊之（2002）「教師の音声教育観と指導の実際」『日本語教育方法研究会誌』9-1, pp. 2-3.

田川恭識・渡部みなほ・野口芙美・小西玲子・神山由紀子（2015）「総合日本語クラスで日常的に音声指導を行うための教材開発に向けて―初級日本語クラスにおける実践とその問題点―」『早稲田日本語教育実践研究』3, pp. 9-24.

日本語教育学会コース・デザイン研究委員会（1991）『日本語教育機関におけるコース・デザイン』凡人社.

松崎寛（2016）「日本語音声教育における韻律指導－CALLシステムを用いた教材開発の動向－」日本音響学会誌 72-4, pp. 213-220.